

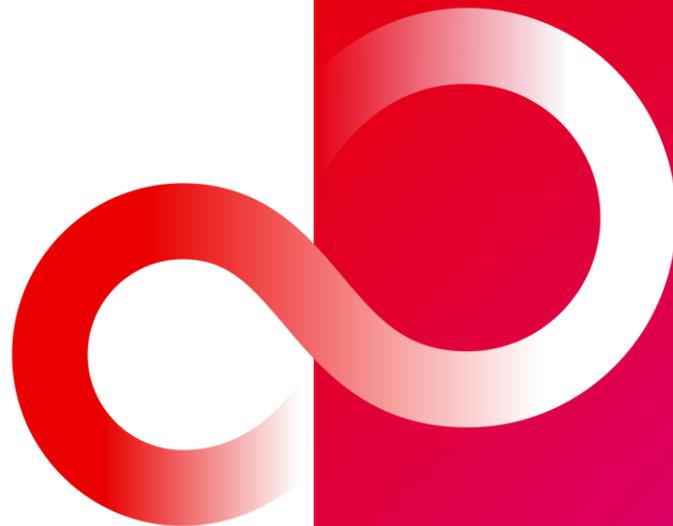
# デリバリー戦略

## 富士通株式会社

執行役員SEVP  
グローバルテクノロジーソリューション

島津 めぐみ

2023年5月29日



# 島津 めぐみ

Shimazu Megumi

1987年にシステムエンジニアとして富士通株式会社に入社。  
建設・大手石油の顧客を中心に大規模システムインテグレーション  
プロジェクトを担当。2009年に米国に拠点を移し、日系企業の  
現地拠点システムインテグレーションプロジェクトに従事。  
2011年に民需向けパッケージ製品の開発・販売を担当。

2015年よりインフラサービスビジネス領域責任者として、  
安定的な利益体質への改善を実現。

2021年にはインフラサービス領域に加え、グローバルデリバリー、  
ジャパン・グローバルゲートウェイ(JGG)を担当。  
2022年より英国へ拠点を移し、グローバルソリューション・  
サービスデリバリーのさらなる改革を推進中。



# 本日お話をさせていただく領域

## I. デリバリー標準化・生産性向上

事業モデル・ポートフォリオ戦略

### サービスソリューションの拡大

成長領域へのシフト

Fujitsu Uvanceを含む収益性の高いデジタル・クラウドサービスを中心に成長を目指す



注力施策

- ・コンサルティング拡充
- ・戦略的アライアンスの発展
- ・テクノロジー強化・ビジネス実装
- ・人材の育成、リスキリング

- ・デリバリー標準化・生産性向上
- ・モダナイゼーション拡大
- ・品質安定化、セキュリティ強化



\*調整後営業利益率  
営業利益から事業再編、事業構造改善、M&A等に伴う損益ならびに制度変更等による一過性の損益を控除した、本業での実質的な利益を示す指標  
(従来、本業利益として表記していたものと同一)

© 2023 Fujitsu Limited

## II. モダナイゼーションナレッジセンター

カスタマサクセス戦略/地域戦略

### お客様の最適なモダナイゼーションを実現

モダナイゼーション

富士通の独自の強みをお客様の価値に変え、お客様資産の最適化とDX・GX\*を支える



#### お客様にとっての価値

\*GX: Green Transformation

**安心・安全**  
お客様が既存資産で培ったものを受け継ぎながら将来を見据えて最適にモダナイズ

**トータルサポート**  
メインフレームなどの基幹システム構築で培ってきたエンジニアリング力を活かし、モダナイゼーションをトータルサポート

**最適なソリューション**  
戦略/パートナーとのアライアンスも活用しグローバルなモダナイゼーションサービスを実現

#### 富士通のモダナイゼーションサービス

#### 富士通のケイパビリティ



- 変革パートナー (Ridgelinez)
- 専任組織 (モダナイゼーションナレッジセンター)
- **デリバリー体制 (2025年度までに35,000人体制に)**
- テクノロジー

© 2023 Fujitsu Limited

※ 5月24日中期経営計画資料より抜粋

# I. デリバリー標準化・生産性向上

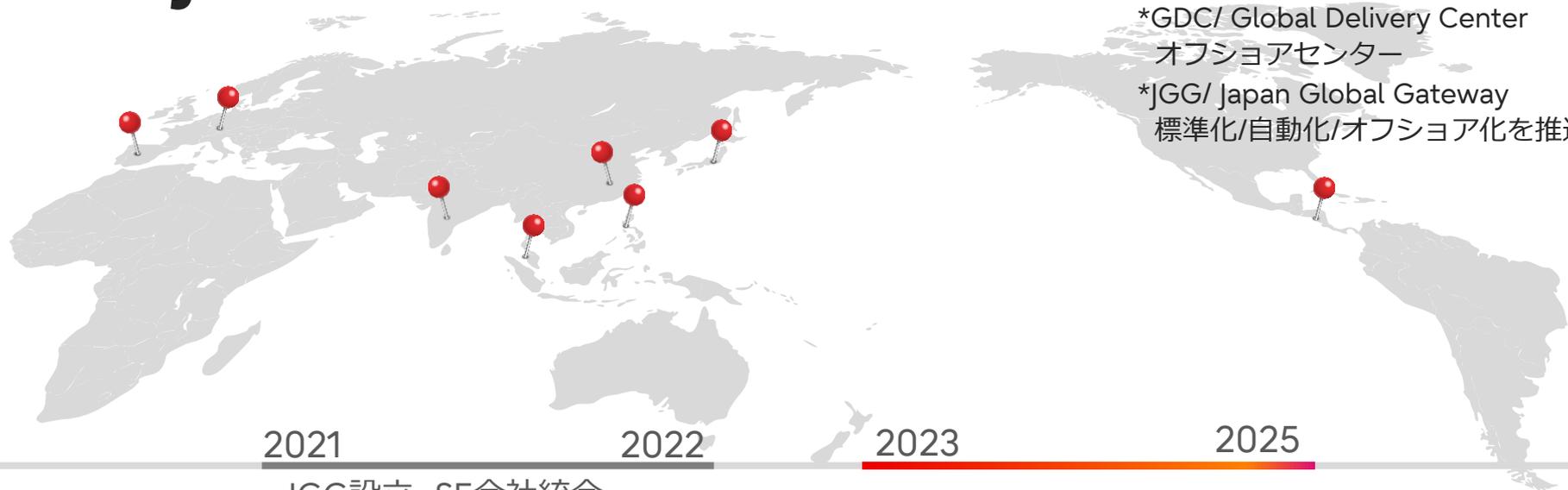
- GDC/JGGによる取り組み

# GDC/JGG\* 人員規模



\*GDC/ Global Delivery Center  
オフショアセンター

\*JGG/ Japan Global Gateway  
標準化/自動化/オフショア化を推進



2021

2022

2023

2025

JGG設立、SE会社統合



23,200  
(18,500/4,700)



30,000  
(23,000/7,000)



40,000  
(30,000/10,000)

総人員数  
(GDC/JGG)

# 利益改善の施策

品質/生産性  
向上

稼働率  
向上

成長領域の  
ケイパビリティ  
拡大



オフショア率向上

- 需要予測向上による商談初期からのオフショア化



内製化拡大

- パートナー依存からのシフト



JGG活用拡大  
(標準化/自動化の推進)

- Fujitsu Developers Platform
- シェアードサービス
- AI活用



成長領域への  
スキルシフト

- Uvance要員の拡充



拠点最適からの脱却

- グローバル横断でのリソースマネジメント
- レジリエンスの向上 (地政学リスクへの対応)



高い従業員エンゲージメント

# デリバリーモデル

シェアードサービスによる、標準化・自動化の推進

シェアード  
サービス



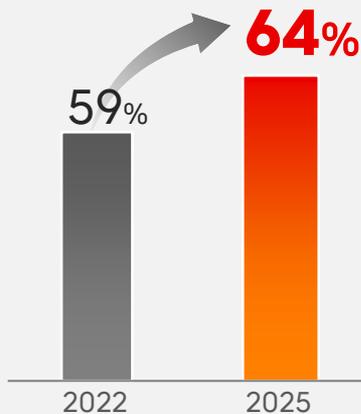
シェアードサービスを  
支える組織基盤



# 品質・生産性・稼働率の向上

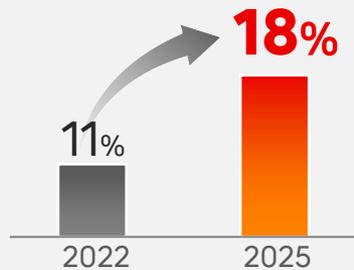
内製化、オフショア、標準化/自動化の拡大により、品質・生産性・稼働率向上を実現

## 内製化



- 技術力、デリバリー知見の蓄積
- キャッシュアウト抑制
- リアルタイムなデータによるプロジェクトマネジメントと不採算の抑止

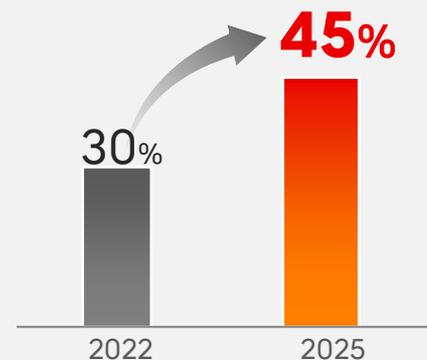
## オフショア



- 単金差によるコストダウン
- 安定したリソース供給
- グローバルな標準化の推進

## JGG活用

(標準化/自動化)



- 内製化率、GDC活用率の向上
- 投資の最適化
- エンジニアの最適配置
- 成長領域に応じたケイパビリティの確保

# 成長領域のケイパビリティ拡大 - GDC

成長領域要員比率 10% → 45%  
2022 2025



## リソースマネジメントの高度化

- 需要・稼働状況・スキルマップを連動させたデータドリブンマネジメント
- ビジネス・コーポレート部門一体での計画策定と実行



## リスクリング

- リスキルプログラムの設立
- 豊富なデリバリー経験を保有する豪Enable社の知見活用
- 教育プログラムの作成・実行における戦略パートナー連携



## 従業員エンゲージメント

高エンゲージメントスコア **83**

(グローバルベンチマーク比 +8)

- GDC横断での人材マネジメント
- 社内外のSDGsコミュニティ活動への積極的な参加
- リスキリング機会提供による挑戦の促進

## Ⅱ. モダナイゼーションナレッジセンター

# モダナイゼーションとは

お客様システムの大切なアプリケーション稼働資産を最大限に活かし、稼働するプラットフォームやアプリケーションアーキテクチャをモダナイズし、クラウドをはじめとする最適なIT基盤へトランスフォームさせること

**お客様のシステム資産**

アプリケーション資産  
データ資産

メインフレーム、UNIX、オフコン、オンプレミスのオープンシステム

アーキテクチャの旧式化、サポート切れ、販売終了

## 富士通ケイパビリティを結集した実行アプローチ



- 01** 業務・資産可視化
- 02** グランドデザイン
- 03** 情報システム全体のスリム化
- 04** モダナイゼーション

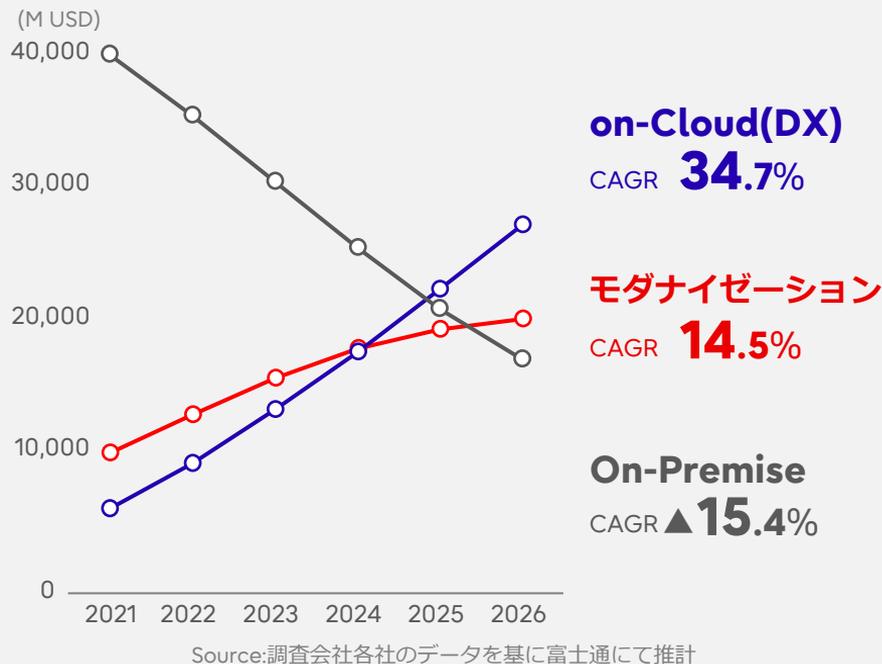
DX/GX - Uvance -	リビルド
リライト	リホスト



# モダナイゼーション市場

## 日本市場

- 経済産業省DXレポート提唱による「2025年の崖」が迫る中、お客様がDXに取り組む先駆けとして既存情報システムの最新化(モダナイゼーション)の需要が増加
- メインフレーム等のレガシーシステムやオンプレミスでのオープンサーバのシステム稼働形態からクラウドシフトが加速
- クラウド普及の増加にあわせ、2026年にかけてモダナイゼーションのマーケット規模は成長



今後のメインフレーム・UNIXサーバの規模縮小を上回る  
モダナイゼーション・On-Cloud(DX) ビジネスの拡大を図る

# 攻めのモダナイゼーション

## モダナイゼーション市場

変革パートナー  
Ridgelinez

DX/GXの知見

### お客様担当部門

デリバリー部門  
JGG/GDC

専門技術集団

・ビジネスプロデューサー  
・システムエンジニア

業務・システムの  
理解・知見

設立:  
'22年9月

**モダナイゼーションナレッジセンター  
(CoE\*)**

\*CoE/ Center of Excellence

- ・ 商談・技術支援
- ・ デリバリーナレッジの収集・展開
- ・ モダナイゼーション手法・ツールの整備
- ・ グローバルで実績のあるモダナイゼーションツール「PROGRESSION」の日本展開
- ・ お客様システムのモダナイゼーション状況フォロー
- ・ 戦略パートナーとのアライアンス推進

お客様



長年培ってきた  
お客様業務・システムの経験



CoE機能によるナレッジ集約

GDC/JGGとモダナイゼーションで  
GM率+1%/年 改善に大きく貢献

**Thank you**

